青の交響曲（シンフォニー）車内にて

大阪・関西万博 2025

あけましておめでとうございます。

市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は「大阪・関西万博」が開催され国内外から多くの方が関西、大阪を訪れ、その熱気と活気はこの羽曳野にも大きな影響と刺激を与えてくれました。

また、この万博を契機とした新たな技術や地域間の連携が生まれ、未来へ向けた大きな一歩を踏み出した一年となりました。

さて、万博にちなみ異国の諺で市民の皆様と共有したい言葉があります。

「早く行きたければ一人で行け、遠くへ行きたければみんなで行け」――

スピード感をもって行政サービスを進めることはもちろん大切ですが、

私たちが目指すのは、誰もが安心し、将来にわたり幸福を享受できる「その先へと続く未来」のまちづくりです。

万博で示された「いのち輝く未来社会のデザイン」は、まさに私たち「みんな」が力を合わせることで実現します。市民の皆様一人ひとりが主役となり、住民、企業、団体、そして行政が協働することが不可欠です。

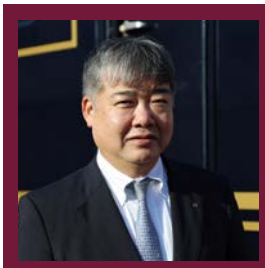
そこでこの度、観光特急「青の交響曲（シンフォニー）」の車両をお借りして、近畿日本鉄道株式会社の原恭社長、外園康裕羽曳野市議会議長、西元宗一大阪府議会議員と「地域の持続的な発展と選ばれるまちづくり」についてお話をさせていただきました。

市民の皆様におかれましては、本年も輝かしい未来へ「みんな」で歩みを進めるため、変わらぬご協力とご参画を心よりお願い申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いします。

羽曳野市長
山入端　創

対談者紹介



84 年（昭 59 年）一橋大法卒、近畿日本鉄道（現近鉄グループホールディングス）入社。19 年近畿日本鉄道取締役常務執行役員、20 年三重交通グループホールディングス社長。23 年より現職。広島県出身。

原 恭（はら やすし）
近畿日本鉄道株式会社　代表取締役社長

西元 宗一（にしもと そういち）
大阪府議会議員

外園 康裕（とぞの やすひろ）
羽曳野市議会　議長

まちのポテンシャルと近鉄の歴史的役割

山入端市長：
羽曳野市の人口は現在、約 10 万 6,000 人です。緩やかに減少しているのは自然減が多いためですが、私が就任して 6 年目ですが、その間の社会増減においては令和 3 年以降の 4 年間転入超過が続いています。
市の魅力を知っていただくことで、まだまだ「選ばれるまち」になっていけると考えておりますし、市内や特に駅周辺など、今後も可能性に満ちた場所がたくさんあります。

西元府議：
確かに、羽曳野市は近鉄南大阪線で大阪市内まで 20 分圏内に位置しており利便性が高いため、通勤・通学など生活の足として利用されていますよね。

外園議長：
私自身、高校時代から近鉄電車にお世話になっており、恵我ノ荘駅が地元です。羽曳野市では 1 日に約 4 万人に近い市民がご利用されています。市民にとって近鉄電車は本当になくてはならない存在です。

原社長：
近鉄は羽曳野市内に 5 駅を有しております。また、近鉄全線で最も古い路線は柏原～道明寺～古市の区間で、1898 年に開通しており、128 年の歴史があります。
大阪阿部野橋から古市まで急行で 18 分、準急も 10 分おきに走っており、利便性が高く、ダイヤが分かりやすい路線であると自負しております。

住民満足度の向上と地域の魅力発信

山入端市長：
選ばれるまちづくりに向けて、まずは羽曳野市に住んでいただくために、住民満足度を高めていく取り組みを進めました。日頃住んでいる地域での生活の質（QOL）をしっかり上げるためです。具体的には、ドッグランを 3 カ所作ったり、子どもたちがボール遊びできる公園を整備したりしました。その一方で、羽曳野市に来てくださる方も増やさなければなりません。

島泉まちかどあそび広場

わんパークみねづか（ドッグラン）

例えば、駒ヶ谷駅周辺には、大阪市内のような都心部から 30 分以内で行けるワイナリーが 2 つあるという、世界的に見ても特筆すべき魅力を持っています。また、石川河川公園などを活用した企画も強化したいです。近鉄さんとは、今後も共に南河内の魅力を高める取り組みを進めていきたいと考えています。

（右）河内ワイン
（左）飛鳥ワイン

外園議長：
イベントなど、以前からご協力いただいている中で、観光客を呼び込める取り組みは、我々も協力できるところをしっかりやっていきたいです。

西元府議：
昨年の10月に大阪はびきの観光局が開催した、羽曳野の魅力のひとつである食肉をアピールする「はびきの肉まつり」でも近鉄さんとコラボしていますよね。

二次交通の充実

原社長：
駅を中心とした賑わいあるまちづくりを進めるうえで、交通の結節機能を強化することが重要です。羽曳野市さんのご尽力により、古市や恵我ノ荘で駅前広場の整備が進められており、感謝いたしております。また、駐輪場の充実や、バス・タクシーへの乗り継ぎ利便性の向上に加え、我々が最近注力しているのがシェアサイクルです。このエリアは平坦なところが多いので、ビジネスや観光で来られた方が自転車で移動し、ポートで乗り捨てるという日常使いの広がりが期待できます。古墳巡りや石川河川公園へ行く際の二次交通として、モデルコースを作ってご案内すれば、使い方も広がると思います。

山入端市長：
シェアサイクルは本当に重要なアイテムです。我々も市有地を活用したポート設置を計画しています。公共交通機関、シェアサイクルの利用が進むことは SDGs にもつながりますよね。

シェアサイクル（古市駅東広場）

地域資源の活用と賑わい創出に向けて

山入端市長：
地域資源としては、「なみはや国体」のウエイトリフティング競技の会場にも使用された「タケダハムはびきのコロセアム」という大きな施設があります。ここを活用し、様々なイベントも誘致する計画です。

原社長：
駅から近いところにそういった集客施設があるのは、本当にありがたい話です。特に、これからは高齢化が進む時代において、車でしか行けない場所ではなく、鉄道を使って移動やサービスが受けられる場所が必要なのではないでしょうか。人が集まる魅力的なものができれば、我々もそれに対するPR 協力などで貢献できると思います。

山入端市長：
人口減少が進む中で、やはり駅を中心としたコンパクトシティ化もしっかり図っていかねばなりません。
羽曳野市は今後、教育施設を含む公共施設の最適配置を図る必要があると認識しておりますが、公共施設の跡地活用といったプランについても、行政だけでなく、民間や市民からの意見をいただき、近鉄さんにも積極的に関わっていただけたらありがたいです。

原社長：
駅の活用法として、例えば、駅舎を、近隣住民向けのサービス機能として活用し、駅に賑わいができるようにすることも考えられます。他社では、駅舎を建替える際に郵便局を併設した例のほか、リフォームを行い観光交流施設やカフェを設置した例もあります。駅の活用法はまだまだ新展開があるかと思います。

外園議長：
市長が進めておられる駅前や広場の整備は、そこに人が集まる仕組みができれば、「駅を中心としたまちづくり」にますます近づいていくでしょう。

はびきの肉まつり feat. 日本の食まつり

観光資源の活用と沿線の活性化

山入端市長：
観光面では、大阪はびきの観光局に私からリクエストしたものが一つ形になりました。それは、教育プログラムです。羽曳野市には世界遺産と日本遺産（竹内街道）があり、さらに大阪府動物愛護管理センターもあります。大阪府内の小学生が社会見学で南河内に来る際、鉄道を利用するというプログラムは、面白いアイデアではないでしょうか。

原社長：
まさにそうですね。古墳も羽曳野の大きな財産ですね。観光は一時的な集客を目的とした単発の企画に頼るのではなく、持続的に人々を惹きつける仕組み作りが必要です。
取組みの一例として、沿線自治体等と協力して大阪阿部野橋駅で沿線地域の物産販売や PR を行う「マルシェ」をたびたび開催しています。マルシェには、大阪はびきの観光局にもご参加いただいているところです。これを定例化できたらと考えています。例えば毎週土曜日に必ず沿線のどこかのまちのマルシェを開催しているような形を目指せればと思います。
また、過去の取り組みを振り返ると、2019 年に百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産登録された際、羽曳野市・藤井寺市と連携して、古市古墳群エリアの魅力を重点的に PR する近鉄エリアキャンペーンを実施しました。「こふん列車」の運行や古市古墳群などを巡る記念ハイキング、記念旅行商品の発売、記念入場券の発売などを通じて、地域の魅力発信に努めました。
地域と鉄道事業者が協力して沿線の魅力を発信し、観光促進を続けることが沿線の活性化につながると考えています。

恵我ノ荘駅前南側広場

こふん列車（2019 年　世界遺産登録を記念して走行）

竹内街道と白鳥陵古墳

応神天皇陵古墳

外園議長：
今回乗せていただいているこの「青の交響曲（シンフォニー）」とぜひ羽曳野市を一緒に盛り上げられたらとも思います。

原社長：
「青の交響曲（シンフォニー）」は通常の運行を終えた後の夕方遅くに、例えば大阪阿部野橋から特別便として運行し、車内で羽曳野市のお酒を飲む「ワイン列車」のような企画も実現できるのではないかと思います。

山入端市長：
ぜひとも大阪はびきの観光局も交えて打ち合わせさせてください。また、ふるさと納税の返礼品として人気のあった古市駅での「駅長体験」の復活も考えたいです。

原社長：
駅長体験を通じて、子どもたちに鉄道の仕事に触れてもらい、鉄道に親しむことは、将来の利用に繋がるだけでなく、鉄道を目指す人材の確保にも繋がりますので、非常にありがたいことです。

「選ばれるまち」づくりに向けての共創

原社長：
古市駅は昔から急行が停まるなど、当社の拠点となっています。この優位性を活かしたいですね。

山入端市長：
古市地域は、本当に駅を中心として一体的なまちの姿を描いていく時期に来たのかなと思っています。

外園議長：
羽曳野市は世界遺産と日本遺産（竹内街道）の両方を持つまちです。古市を拠点とし、駅から歩いて楽しめる企画を増やしていけば、より一層賑わいが増すと思います。

原社長：
今日は「青の交響曲（シンフォニー）」も実際に見ていただけました。是非ともご活用いただけたら幸いです。羽曳野にはまだまだ掘り起こせる魅力がたくさんあることを実感しましたし、市外の方にも羽曳野市に訪れていただくPRのご協力は我々もできますので、地元の皆さんと力を合わせて地域発展に向けて盛り上げていきたいと思います。

山入端市長：
近鉄さんと羽曳野市は、深く関わりあっており、これからもまちを育てていくパートナーとして、共に進んでいけるというイメージを強く持つことができました。市民にとって近鉄さんはなくてはならない存在であり、近鉄さんと協力して、賑わいのある、快適な環境を整え、選ばれるまちづくりを進めていきたいと思います。原社長、西元府議、外園議長、本日は本当にありがとうございました。

「青の交響曲（シンフォニー）」

近畿日本鉄道の観光特急用車両。
沿線の歴史・文化・自然・食などの魅力的で様々な観光資源と調和し、響き合いながら走る「青色の列車」をイメージして「青の交響曲(シンフォニー)」と命名されました。